

Act.1) 陸前高田市、ガイドさんのお話を伺いながら視察

- ・東日本大震災以前の人口24000人、1556人死亡(内市役所108人)、216人行方不明、19800人に減少
- ・15時25分、津波が12.5mmの防波堤を破り、8回に渡り襲われる
↓
高さ16mm、引き波により海の底が見える
気仙川を8kmさかのぼり、3つの橋を壊す
- ・85cmの地盤沈下で砂浜が消える
- ・広田湾の牡蠣養殖壊滅
- ・市街地の7割が草原と化し、休耕田は溜池に
- ・旧市街で機能しているのはNTTのみ
- ・350人が体育館に逃げ、生き延びたのは3人
- ・とにかく高いところに逃げ、気がかりなことがあっても下りない、下りた人は皆、亡くなった
- ・飛鳥がやってきて、お風呂を貸してくれた
- ・今後、16mmの防波堤を建てると、海は見えなくなる

Act.2) 岩手県校友会 菊池 宏会長

- ・校友1名(気仙町の民生委員)、実父1名(陸前高田市商店会役員)が亡くなる
- ・全壊6名、半壊4名、一部損壊1名
- ・年月を経ても母校の支援があるのは、本人はもとより家族も感謝している。

Act.3) 釜石市 佐野美徳氏(1978年理工学部)

- ・震災当時は釜石市農林水産課の課長をしていた
- ・庁舎の2階まで水が入る
- ・情報網が途絶え、職員の安否確認が出来なかったことが不安だった
- ・3日間食料を摂れなかった
- ・庁舎に寝起きし。職員のローテーションづくりに奔走
- ・住宅は土地の権利関係が複雑で進まない
- ・建築費の高騰で入札不調、事業に着手できない

Act.4) 陸前高田市 鈴木正彦氏(公民館の館長)

- ・一番困ったのは水 → トイレが使えない、町の役員が穴を掘り、板を架け、ブルーシートで囲う
- ・横浜から仮設トイレが届く
- ・市役所が被災したため、自衛隊に直接支援要請
- ・家々を回り、避難者のための毛布を集める
- ・公民館(1000人対応)に入りきれない人は各戸が受け入れ、名簿を作成
- ・オール電化より灯油ストーブが役立つ
↑
- ・考えるより直ぐ側にあるものを使う
必要数を把握でき、支援物資を受けやすい

Act.5) 大槌町 NPO 法人テラ・ルネッサンス 吉野和也氏

↑

漁業水産加工 平均年収174万円(2012年 岩手県226万円)

人口13101人(2012年 2011年15999人 18.1%減)

東日本大震災 802名死亡 505名行方不明

将来像 「海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」

2011年4月、大槌町訪問

「側にいたいと思い」WEB会社を退職し、5月に岩手県大槌町で刺し子プロジェクトを立ち上げる
<NPO 法人テラ・ルネッサンス>

1. 大槌復興刺し子プロジェクト

(2013年6月～9月 46,190枚販売 売上55,130,248円 刺し子さんの登録人数146人 刺し子さんの収入17,300,800円)

2. IT事業 1) 書類電子化事業(2012年10月～)

2) イノベーション東北(2013年5月～)

3) 情報共有会(2012年11月～)

4) デジタルアーカイブ実証実験事業(2012年～2013年)

- ・大槌復興刺し子プロジェクト：伝統工芸のない過疎地でのビジネス → 単に縫うのではなく、一針一針が大事
良品計画での販売も決まる
- ・医学論文150万ページの電子化：30名+校正70名の雇用
- ・情報共有会：月2回開催し、役場、支援団体、町民を繋ぐ場であり、所属団体を越えた協働
- ・企業や個人の眠っている力によるイノベーション
- ・被災地の課題は日本の課題、日本の課題は世界の課題、大槌町で世界の課題を解決する

Act.6) 遠野まごころネット

- ・ボランティア活動のハブで、1人からでも希望者を受け入れ、要請のあった事業を紹介
- ・ボランティアは減少傾向にあり、一日数人のことも
- ・2年間で補助金が打ち切られ、車検など車両の維持費も重い
- ・せつかく遠野に来てもらったので、月曜日は観光ツアーを開催
- ・ガレキ撤去から農業の仕事にシフトしている
- ・まごころサンタ基金を設け、被災地の子供にお菓子を配っている

+

集まったお金の中から、高校生に1人10万円の奨学金として寄附

以上、キキトリ:望月行夫